

いじめを見立てる力を高める校内研修 記録様式

～記録者用資料～

《記録様式》

(方眼付模造紙を使用したときの転記位置の目安) ※吹き出しは留意点

マス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1	I. 情報										II. リスク										15	
2																					14	
3	〈検討項目〉 (1) 共通情報 (2) 個別情報 観点1：影響を与える行為 観点2：本人の様子や状況 ・出された情報を箇条書きでまとめる。										〈検討項目〉 ① 行為の反復性 ② アンバランスパワー (力関係の不均衡さ) ③ シンキングエラー (人権に影響を及ぼす間違った考えや認識) ・被害的立場 ・加害的立場 ・傍観者 ・教職員										13	
4																					12	
5																					11	
6																					10	
7																					9	
8																					8	
9																					7	
10																					6	
11																					5	
12																					4	
13	「情報」や「リスク」で出た意見の中で、 「判断」に反映させるものには下線を引く。 「被害感」→青、「行為」→赤、「客観性」→緑。										III. 判断 ①被害感： 有 or 無 A～G ②行 為： 有 or 無 ③客観性： 有 or 無										3	
14																					2	
15																					1	
	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	マス

《記録例》

I. 情報 A: 「Bがグループでいじめられている」「助けたいけど...」 ※Bのグループではない(外から見ても嫌な気持ち) <u>副担</u> <u>給食時</u> B、C、D、EがBにたくさん盛りつけ → Bの女子物だよな → B: 苦笑い B: グループ行動が苦手(①) からの申し送り) 遠足で BとC 同じグループ → BがCのグループに入る Aが注意 C「何い子ぶってんの?」 → A「何も言えなやな」 学年主: 習熟度別 BとC 同じクラス 2人で話していた → 注意 C「Bに教えてもらってるだけ」 「特に何も」 B: 居残り勉強レベル 部活さん: F「Bは遠足のあとCと一緒帰るよ」と (美術) 誘われる → Bは嬉しそうだった → 最近はそのようい <u>副担</u> <u>教室移動の際</u> Bがみんなの荷物をもつ このグループ 注意すると C「いっメン」「いっつもやってる」 軽められる。 学歴: B「それなりうまくやてる」 養教: A「Bが居残り中」「トロ子」 B: 体育 グループ競技「見学しにい」 E: 10月3日「部活やめたい」 Cの発言のせい? E: 保健室で発言															II. リスク ① 反復性 ・荷物もち、数学の時間 C → Bに話しかける ・BとE 応援旗作成 Eが先に帰ると続く Cと一部男子が大笑い ② アンバランス・パワー ・給食「女子物」 → B: 苦笑い ・B(-人になり) < C(リーダー的) ・F: 「Bが同じクラスにかわいい子」 Cのあやれ? B「自分は下」と思っている? ③ シンキングエラー ・移動教室の荷物もち → 力関係から受け入れるのかな? ・給食 → B: 苦笑い 受けざるをえない? ・CはBを格下 ex 応援旗、トロ子 C → Aに対し「何い子ぶってんの?」														
III. 初期判断 ① 被害感: 有 or 無 ② 行 為: 有 or 無 ③ 客観性: 有 or 無															A～G														